JAきみつの概況

ディスクロージャー誌　2023

―　抜粋内容　―

１．事業の概況（２０２２年度）

２．農業振興活動

３．地域貢献情報

１．事業の概況（2022 年度）

概況

令和４年度も、長引くコロナ禍により、農畜産物価格の低迷をはじめ、組合員組織活動や各種のイベントにおいて開催規模の縮小や自粛など、前年に続き各事業に影響を受けました。また、ウクライナ情勢の悪化に伴う原油価格の上昇により原料価格の高騰や、記録的な円安など様々な要因により、農業用資材価格（肥料、農薬）が高騰し、農業者の所得増大に繋げることが厳しい結果となりました。 金融面では、低金利情勢等による収支の悪化を見据え、早期警戒制度が見直されたことを受け、早急に安定した経営基盤を確保することが求められる中で、持続可能な経営基盤の確立のために、管内の１６カ所の金融店舗を１３カ所に組織再編成しました。

信用事業

信用事業は、年金口座獲得や給与振込口座獲得運動を展開しながらも物価上昇に伴う資金需要の増加により個人貯金は、前年比１１億８千万円減少しました。総貯金は、公金等の増加により前年比１０億９千万円増加し、残高では２，０４２億１千万円となり目標を達成しました。貸出金については、農業融資・住宅・マイカーローン推進を積極的に展開し、前年比２０億３千万円伸長し、残高は２９０億５千万円となりました。

また、組合員の資産形成と運用の提案として、投資信託等を扱う複合渉外制度を導入し提案活動に取り組みました。

共済事業

共済事業は、「ひと・いえ・くるま・農業」の総合保障提案力のさらなる強化に向け、信用事業推進体制を統合した複合渉外による保障点検「あんしんチェック」と一般職員からの情報提供により、多様化するニーズに合った提案活動を行いました。４月からは、新たに発売された「認知症共済」の周知活動と、大規模災害に対する万全な備えを訴求した建物保障点検を中心に、組合員・利用者ニーズに合った保障提案を行いましたが、年間目標には届きませんでした。

農業関連事業

販売事業は、米の需給安定を図るため、昨年と同様に非主食用米への作付転換を進め、令和４年産米の集荷数量は、主食用米･非主食用米を併せて前年を上回りました。野菜は、春先の低温等の影響により、５月・６月の主要品目の出荷量減により取り扱い実績は委託・買取販売ともに前年を下回りましたが、果樹・花卉については、出荷量及び販売価格が順調に推移し、前年を大きく上回りました。購買事業は、生産資材・生活物資ともに前年を上回りました。

生活関連事業

燃料については、ＬＩＮＥへの登録及びＱＲコード決済等への取り組みにより、油量も大幅に増加しました。自動車事業は、半導体不足により新車販売が伸びず前年を下回りました。

教育・広報

ＪＡ広報誌「みずき」はＪＡ事業や身近な情報、地域のニュース等を提供し、より親しみやすい紙面作りに努めました。また、食の安全・安心に関わる情報、農業・ＪＡの将来を左右する農政課題等を明確に伝える為、日本農業新聞の積極的な普及活動に取り組みました。この結果、年度末の購読部数は６１５部（普及率 5.85%）となりました。

損益

当組合の財務状況について、令和４年度の事業計画及び「第八次経営刷新３カ年計画」の実践に各部門が取り組んだ結果、事業利益は２億２千万円となり、経常利益は４億３千万円となりました。

今年度の決算では、店舗再編による固定資産の利用目的の変更等により、帳簿の臨時的な減額を行う固定資産減損会計が適用され、減損損失４億８千万円の計上を致しました。このため、会計上の当期剰余金は△５千万円となり、厳しい決算内容となりました。

自己資本の増強に取り組んでまいりましたが、当期は減損損失の影響で自己資本比率は11.97%（前年度対比 0.01 ポイント減）となりました。

また、不良債権処理を進めた結果不良債権比率は 0.79%（前年度対比 0.09 ポイント減）となりました。

２．農業振興活動（２０２２年度）

高校生が林業の就業体験

― 君津青葉高等学校 ―

1 月 12 日　君津青葉高等学校の環境系列 2 年生 16 人は、君津市草牛の山林で林業の就業体験を行いました。千葉県中部林業事務所、千葉県林業研究会の協力を得て、毎年開催しています。生徒たちは、講師に教わりながら、慎重にチェンソーによる伐倒や小型グラップルで伐倒木の集材を体験しました。

埼玉県白岡市で「カラー」をPR

― 小糸花卉園芸組合 ―

君津市小糸花卉園芸組合は 2 月 14 日～18 日の 5 日間、君津市と友好都市協定を締結している埼玉県の白岡市役所 1 階ロビーに、全国有数の産地である小糸地区の「恋人（こいと）のカラー」や「アネモネ」などをＰＲ展示するため、前日に生けこみを行いました。また、隣接する直売所「しらおか味彩センター」でも、展示販売を行いました。

組合員の所得増大と生産拡大をめざして

― 山東ニンニクほ場巡回 ―

2 月 18 日 ＪＡは君津農業事務所、ＪＡ全農ちば、種苗会社と管内 3 市の「山東ニンニク」栽培ほ場 9 か所を巡回し、農家と生育状況や病害虫の発生の有無、収穫の見通しなどについて確認しました。
地場産のニンニクはＪＡ直売所でも人気が高く、農業者の所得増大・農業生産の拡大を目的に栽培を推奨しています。

出前授業で味噌づくりを指導

― 農業体験を通じて ―

3 月 4 日 君津市農業農村活性化協議会は、川崎市立川崎高等学校附属中学校の 1 年生 119 人を対象に「味噌づくり教室」を開きました。当日は、ＪＡ女性部の部員と経済部直売課の職員など４人が同校に出向き、講師を務めました。
材料は、生徒たちが農業体験を通して栽培した小糸在来®大豆などを使用。講師たちは、味噌づくりのポイントや今後の管理方法などについて丁寧に指導しました。

小糸在来の甘みを活かした逸品！

― 小糸在来®エダマメドレシッングが完成 ―

小糸在来®を使用したエダマメドレシッングが完成し、3 月より直売所で販売を始めました。千葉商科大学人間社会学部の勅使河原教授とゼミ生と共同開発。昨年発売した「ネギドレッシング」に続いて第 2 弾になります。
ドレッシングは、エダマメの量や調味料の配合を調整して、豆腐にもあう醤油ベースに仕上がりました。小糸在来の甘みを活かした逸品です。ぜひ、お試しください。

園芸作物の生産による所得の増大

― 生産拡大に向けてサツマイモ栽培講習会 ―

4 月 13 日 ＪＡ自己改革に位置づけている「第六次農業・地域振興計画」のなかで「園芸作物の生産による所得の増大」を掲げ、サツマイモ「紅はるか」の栽培講習会を開きました。当日は、袖ケ浦市農業センターで栽培を検討している農家、君津農業事務所、ＪＡ全農ちば、ＪＡ職員など 16 人が参加。栽培計画や施肥設計の説明後、注意点について意見交換を行いました。近年、サツマイモは焼き芋ブームや加工用で需要が拡大しているのに対し、県内の作付面積は減少傾向にあることから、市場でも需要が高いサツマイモの生産拡大に取り組みます。

農業農村の活性化へ

― 農業体験の受入 ―

5 月 18 日 君津市農業農村活性化協議会は、君津市上湯江のほ場で牧野原中学校 2 年生 99 人の農業体験を受入れました。生徒は、インストラクターの指示のもと 2 班にわかれ、エダマメ（初だるま）のは種とサツマイモ苗（紅東など）の定植を行いました。

プリンスメロン目揃え会

― 富津メロン部会 ―

5 月 24 日富津メロン部会は、富津経済センター富津集荷場で「プリンスメロン目揃え会」を開き、同部会の森 豊部会長をはじめ部会員、市場関係者、君津農業事務所、ＪＡ全農ちば、ＪＡ職員など 24 人が参加しました。当日は、現品査定のほか、販売情勢、生育状況や今後の管理、選果選別基準や出荷時の注意点について説明しました。5 月下旬まで、東京や千葉の市場へ出荷し、ＪＡ農産物直売所「味楽囲」2 店舗でも販売しました。

原木シイタケ活着指導巡回

―　椎茸部会　―

6 月 20 日 椎茸部会は、原木シイタケの活着指導巡回を行い、川名博美部会長をはじめ部会員、中部林業事務所、種菌メーカー3社、ＪＡ職員など 11 人が参加しました。ＪＡ管内 3 市のほだ場 6 か所を巡回し、今年の春に植菌したほだ木の活着状況やほだ場環境などを確認しました。中部林業事務所の普及指導員や種菌メーカーの職員は「活着状況は、おおむね良好」と話し、今後の栽培管理について指導しました。

新たな産地化を目指し生産拡大

―　水田を活用したサトイモほ場巡回　―

7月4日　JAは君津農業事務所と、富津市・袖ケ浦市のサトイモほ場を巡回し、生育状況や病害虫の発生の有無などを確認。今後の栽培について指導を行ったほか、生産者同士で情報を共有する機会にもなりました。この巡回は今期に入って2回目。8月にも行い、11 月の出荷前には目ぞろえ会を開催する予定です。
水田を活用したサトイモの栽培は、JA が自己改革として位置付けている第六次農業・地域振興計画で「園芸作物の生産による所得の増大」を掲げ取り組んでいます。

農業用ドローンの普及拡大

―　小糸在来®ドローンで農薬散布　―

小糸在来®愛好クラブは、ＪＡ管内のほ場でドローン（小型無人飛行機）を使ったエダマメ、大豆の農薬散布を行いました。これは、農業者の作業負担の軽減を目的に行ったもので昨年に続き２年目になります。今年は、君津農業事務所、農薬メーカー、ドローンのオペレーター、愛好クラブ会員、ＪＡ職員らが参加し、エダマメの葉表裏に感水紙を付け農薬がしっかり散布されているか試験も行いました。

食農体験の積極的な提供

― 体験農園開講式 ―

9 月 19 日　ＪＡは、君津市上湯江のほ場で体験農園を開講し、参加者、インストラクター、経済部直売課の職員など 10 人が参加しました。
当日は、ＪＡの鈴木芳昭理事が園主となり、ダイコン・カブのは種、キャベツ・ブロッコリーの定植を行いました。参加者は園主から作物の栽培について説明を受けた後、自身の区画に丁寧に植え付けを行っていきました。
来月は畝たてや小糸在来®エダマメの収穫、11 月は今月植えた 4 種の野菜の収穫を行っていきます。
体験農園は、ＪＡが自己改革として位置付けている第六次農業・地域振興計画で「農業とＪＡの地域応援団づくり」を掲げ、食農体験の積極的提供に取り組んでいます。

海ほたるで農畜産物トップセールス

― 地元農産物の PR 販売 ―

袖ケ浦市農畜産物直売所ゆりの里は袖ケ浦市と、東京湾アクアラインの「海ほたる」パーキングエリアで、市内の農畜産物の PR 販売を行いました。当日は、袖ケ浦市の粕谷智浩市長、JA の江澤武夫組合長が参加。購入者に、袖ケ浦市産米の食べ比べセットなどのノベルティを配布しました。

年末感謝祭「１年間のご愛顧に感謝を込めて」

― 直売所 3 店舗 ―

ＪＡきみつは、直売所 3 店舗で農業まつりを盛大に開きました。2022 年は、直売所が毎年 12 月に行っている「年末感謝祭」と同時開催。12 月 11 日に味楽囲さだもと店、12 月 17 日に袖ケ浦市農畜産物直売所ゆりの里、12 月 18 日に味楽囲おびつ店で行いました。
農業まつりは2019年以来3年ぶりの開催となりました。

３．地域貢献情報

Ⅰ　地域貢献に関する取組み

○協同組織の特性

当ＪＡは、君津市、袖ヶ浦市、富津市を事業区域として、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となって、相互扶助（お互いに助け合い、お互いに発展していくこと）を共通の理念として運営される協同組織です。

当ＪＡの資金は、その大半が組合員の皆様などからお預かりした、大切な財産である「貯金」を源泉としております。当ＪＡでは資金を必要とする組合員の皆さま方や、地方公共団体などにもご利用いただいております。

当ＪＡは、地域の一員として、組合員及び地域住民の信頼と支持を得ながら、農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向けて、事業活動を展開しています。

また、ＪＡの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めるとともに、事業基盤の維持・拡大に取り組み、新しい時代に対応した経営・意識・事業の改革に取り組んでいます。

組合員数　　２２，２９２人　　出　　資　　金　　３，９２４百万円
（うちその他の出資金）　（１，１６０百万円）

１．地域からの資金調達の状況

(1)貯金積金残高　　204,217 百万円(うち定期積金 2,486 百万円)

(2)貯金商品　　・高齢者優遇定期貯金「寿 500」、同定期積金「長寿 300」
・退職者優遇定期貯金・共済金定期貯金
・知人囲会定期積金・子育て支援金利上乗せプレミアム定期積金

２．地域への資金供給の状況

(1)貸出金残高　　21,938 百万円(組合員等)
2,863 百万円(地方公共団体等)
4,252 百万円(その他)

(2)制度融資取扱い状況

① 農業近代化資金　　775 百万円（ 120 件）
(資金の概要)　設備投資等に必要な資金を融資する農協等民間金融機関が融資する中期の資金で県ならびに市が利子補給する資金

② 農業改良資金　　0　百万円（　0 件）
(資金の概要)　新たな農業部門を開始したり、新たに加工部門に進出するなど新作物分野・加工流通分野・新技術にチャレンジする際の利用に適した中期の資金で県の資金を原資とする無利子資金

③ 就農支援資金　　3 百万円（ 3 件）
(資金の概要)　新たに農業を開始しようとする者(認定就農者)が就農のために研修等の受講、就農に際しての準備、経営開始時の設備投資等に必要な資金を融資する国・県等の資金を原資とする無利子資金

④ 家畜飼料特別支援資金　　0　百万円（ 0 件）
(資金の概要)　畜産農家が配合飼料の価格高騰により、経営の継続に支障をきたしている時に、飼養技術の向上等による生産性向上を図るまでの間、飼料購入に要する経費を融資する資金

⑤農業経営負担軽減支援資金　　11 百万円（ 1 件）
(資金の概要)　農林公庫資金、農業近代化資金、農業改良資金等の制度資金を借り換えるための民間原資の資金で都道府県(国からの補助金を含む。)が利子補給する資金

(3)融資商品　　・住宅資金　・生活資金　・教育資金　・農外事業資金
・賃貸住宅建設資金　・水洗トイレ資金

３．文化的・社会的貢献に関する事項（地域とのつながり）

(1)文化的・社会的貢献に関する事項

・税務相談会開催　・法律相談会開催
・年金相談会開催　・集団健康診断及び健康相談
・中学生、高校生職場体験協力(インターンシップ)
・日本赤十字社の献血への会場提供および参加

社会貢献活動
（ウクライナ避難者へ農産物贈呈）

文化・教育に貢献
（手づくり雑巾を地域の子どもへ寄贈）

地域ふれあい活動
（峰上支店ふれあい市場）

交通安全教育に協力
（管内小学校新１年生にお守り）

(2)利用者ネットワーク化への取り組み

・知人囲会　（会員数　279 人）
（会員資格）　定期積金(契約期間３年、契約額 48 万円以上)の契約者で入会を希望する方
（活動内容）　グルメツアー、観劇ツアー等の親睦
・年金友の会（会員数　14,201 人）
（会員資格）　公的年金の受給口座を当ＪＡに指定している方
（活動内容）　親睦旅行　グラウンドゴルフ大会
※新型コロナウイルスの影響により、活動を一部中止させていただいております。（令和５年３月末現在）

(3)情報提供活動

・広報誌「みずき」年 12 回発行
・ホームページ URL　http://www.ja-kimitu.or.jp
・日本農業新聞普及活動

(4)店舗体制

本店１　支店 12　経済ｾﾝﾀｰ４　介護ｾﾝﾀｰ１
農機統括ｾﾝﾀｰ1　農機整備工場１　給油所４
直売所３　葬祭ｾﾝﾀｰ１　葬祭場２　自動車整備工場２
不動産ｾﾝﾀｰ１　共済代理店 27　（令和５年４月現在）